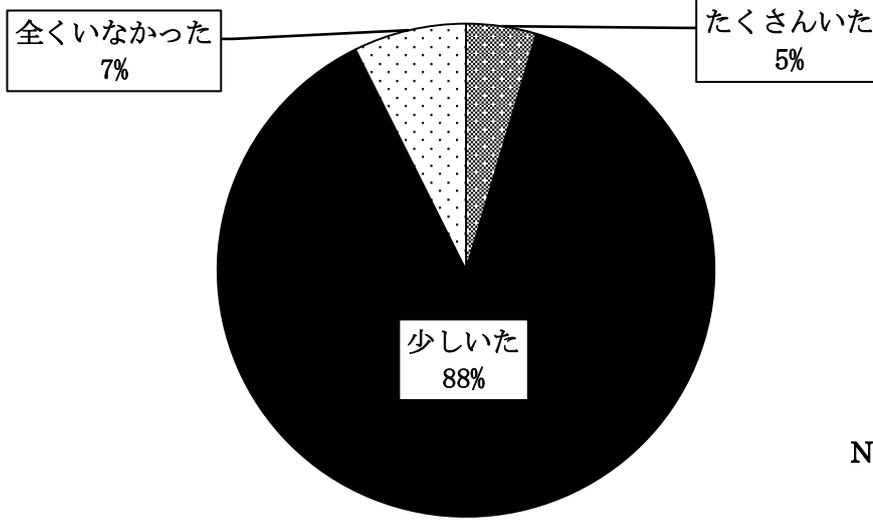
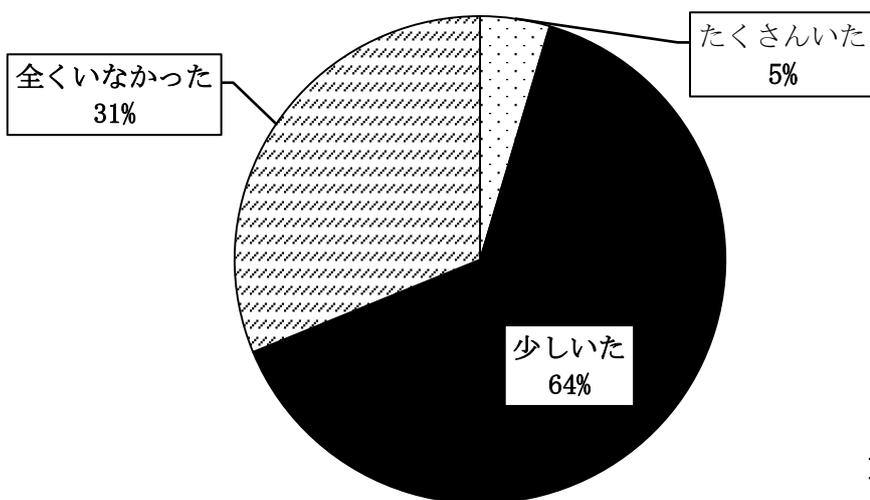


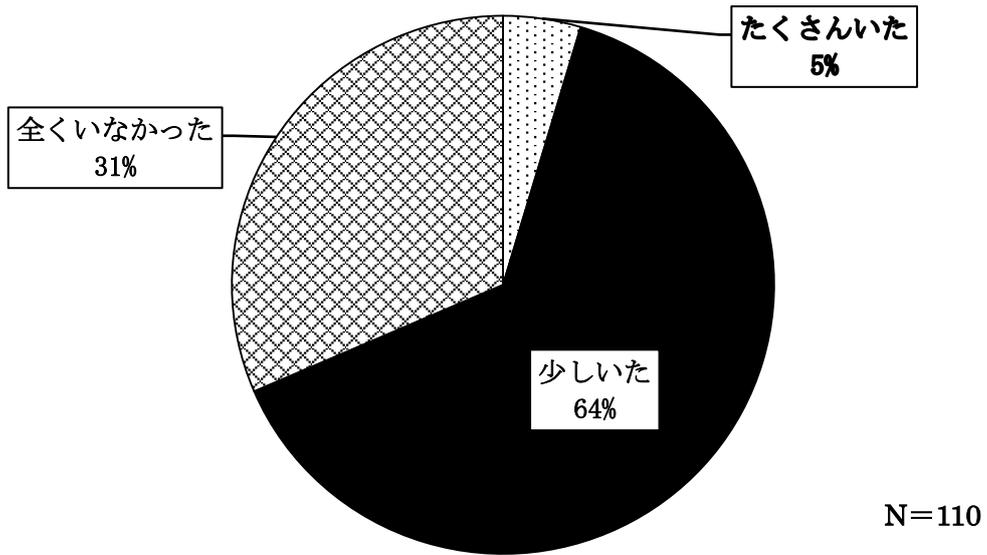
2、口腔内のことで困ったことがあった  
利用者はいましたか



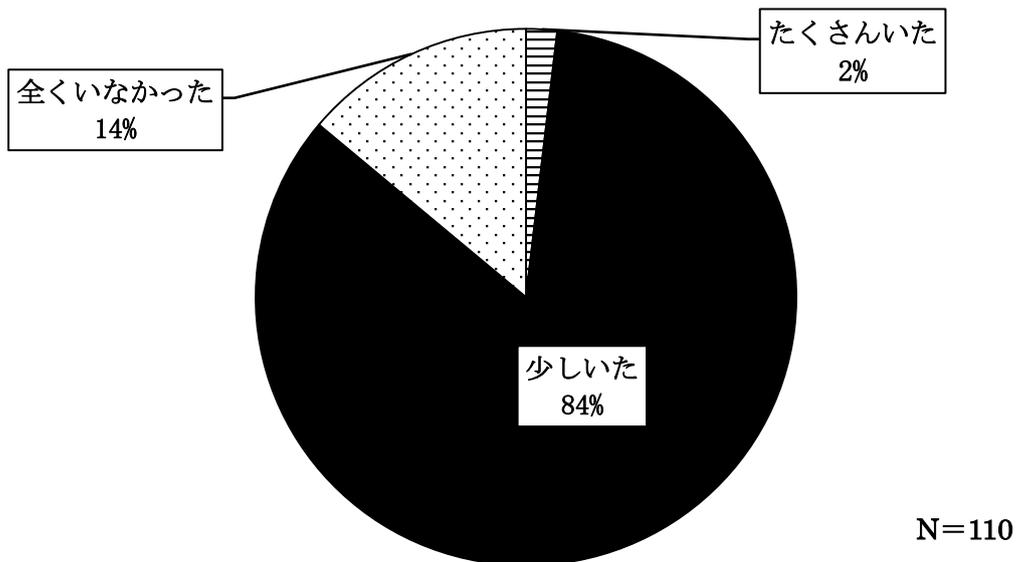
3、以前と比べて、食が細くなった  
利用者はいましたか



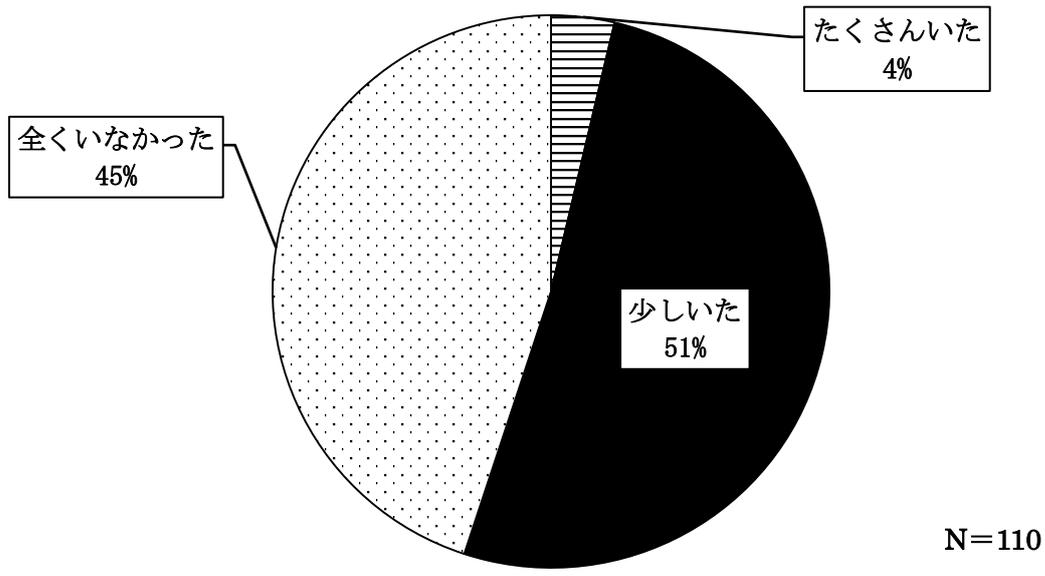
4、以前と比べて、むせが増えた利用者はいましたか



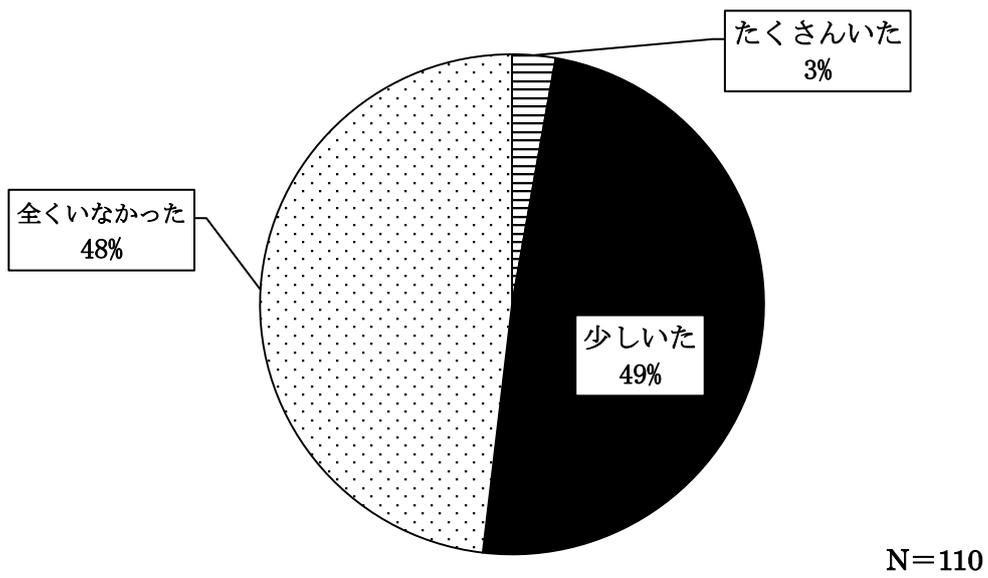
5、義歯が合わなくなった利用者はいましたか



6、口臭がきつくなった利用者はいましたか

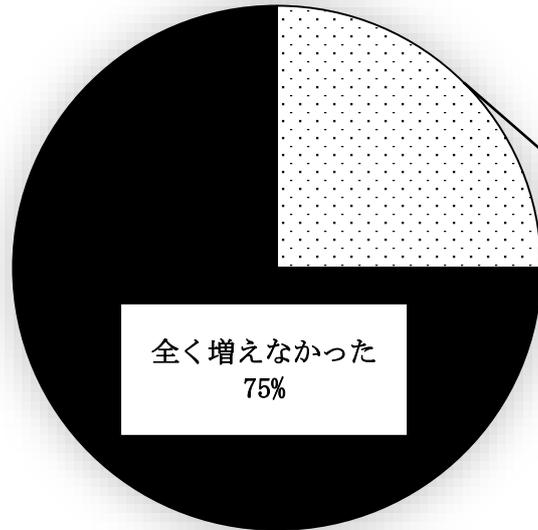


7、普段より食事に時間がかかる利用者はいましたか



8、誤嚥性肺炎に罹患した方は増えましたか

とても増えた  
0%

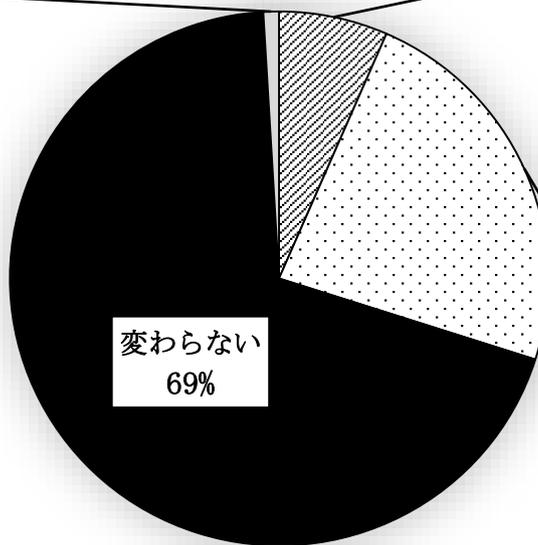


少し増えた  
25%

N=110

9、職員による口腔ケアの状況

行わなかった  
1%

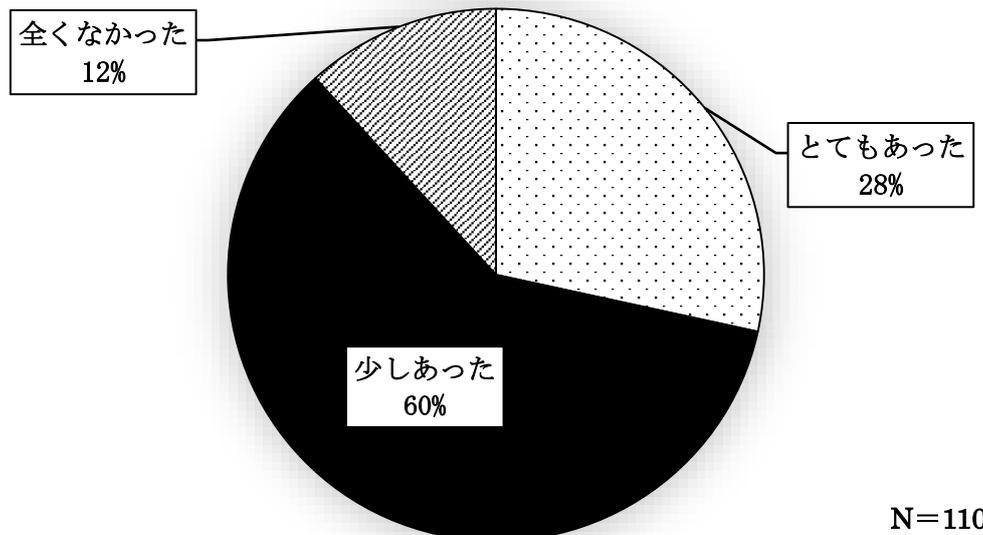


特に力を入れた  
7%

少し力を入れた  
23%

N=110

## 10、本当は訪問診療を行って欲しいと思っていましたか



### <自由記載欄（全記載）>

- 診察やケアは密になるため、緊急を要するか否かの判断が難しく、いつになったら安心してケアを受けられるかが不安です。
- 訪問診療が診療してくれて安心ですが、もし訪問先（別の施設等）で感染者と濃厚接触していたらと不安に思うことがあります。
- ご入居者の中には、急な歯の痛み等があり、早急に対応できず困った。
- 家族・友人等の外部の人との接する機会が減り、全体的にストレスが溜まったこと。ちょっとした義歯等の相談ができなかったので食事を残す利用者が複数いた。
- 飛沫・接触感染に対して、しっかりと対策していることは分かっているが、外部から人が入ることに対して心配はありました。
- 感染証対策用の物品の確保、利用者、ご家族、職員のメンタル面。
- 生活に対して制限されている。ストレス不満が少なからずではあるが聞かれ始めている。
  - 今後、多種のサービスに対して提供に対してどこまで行えるかが不安。
- 井土ヶ谷では以前外出される方が多かったので、外出できないことによるストレスが目立った。ADLも少しずつ低下傾向にある。
- 訪問診療を中止しなかったため、特に問題なかったです。
- 口腔ケアに力を入れて実施しているが、やはり以前のようにご指導頂けるとありがたいです。
- ご入居者の歯の治療が思うように進まない。
- 通院や訪問での診療を避けるため、できる限り生活の中でのリハビリや口腔ケアには力を入れたが、ADLや認知能力が落ちた方がいます。
- 可能な限り口腔ケアを行っているが、しばらく専門医に診てもらっていないため、状態の判断に困った。
- 義歯の調整を行っている入居者が「痛い」と自ら義歯を入れなくなった。現状訪問診療の再開が見込めないため、恐らく、義歯を入れられないまま生活する可能性が高い。
- 義歯製作の途中中止。

- 訪問診療での対応ができない場合、急遽治療が発生したらどういった対応をしたいか不安です。
- 定期的な口腔内の評価が欲しかった。
- 歯科衛生士さんの定期的な口腔ケアがなくなったため、介護スタッフのみの口腔ケアでは少し不安があります。
- 外出や面会等の制限によりストレスの増加。
- コロナ流行にて訪問歯科での口腔ケアを数カ月中止していたため、施設でもカバーできるよう心掛けていたが、体調不良による欠員等が増えていく中で、どこまでカバーできているか不安はありました。
- 外出や友人・ご家族との時間が減ったりなくなったりで精神面にかなり負担がかかり、体調にも影響している
- 訪問診療に来る方から罹患するリスクもあるため、どこまで制限すべきかの判断に困りました。
- 口腔ケアのみのお客様でしたが、コロナの影響により治療を要する方みの往診になったことで歯周病が悪化してしまった。
- 職員による口腔ケアができているお客様は注意することができますが、ご自身で歯みがきをされている方は少しずつ口腔内の環境が悪化しているように感じました。
- 口腔ケアをして頂きたいが、外部の方が施設内に入ってくるのが不安。
- 外部が立ち入ることへの感染に対する不安
- 外部と接する機会が激減し、精神的に不安定になる方や、認知症の症状が悪化する方がいた。
- 感染リスクがあるため、慎重になっている。無症状で感染している患者がいらっしやることで知らないうちに感染していると困る。利用者様から複数名相談がありました。急ぎでない方は、お休みされてました。
- 家族の支援を受けていたが、面会の禁止で支援が受けられなくなった。
- 外部より人を施設に入れることによる感染リスク。特に唾液による感染の可能性が騒がれている中で、訪問歯科を入れることの怖さを感じました。
- 体調不良の際の「訪問診療を呼ぶ」「外部を受診する」等の施設外の感染リスクが増えてしまう状況に対して不安を感じる。
- 外部との交流が減ったことで、精神的に落ち着かないご利用者様が増えた。
- 外部との交流が遮断されたことで刺激が少なくなったのか、認知やADLともにやや低下したと思われる方々がいた。
- 口腔内の専門ではないので、口腔内の変化自体に気付かないこと。本人が変化を訴えるまで虫歯等に気付かないことが多かった。
- 義歯を使用している方は特に調整をして欲しいという要望が多くあった。
- 口腔ケアが行えなくなったことが困った。
- 本来、早期対応をお願いしたい場合でも依頼をためらうことがあります。
- 痛みや緊急性のある治療は入ってもらいたいが、2月以前に確認されていた軽度のむし歯の進行や口腔ケアを入れて頂いていた方の歯周炎の経過などが心配でした。緊急性があるかと考えると緊急性はないものの定期的な確認と専門性のアドバイスが得られないの

で困りました。幸いなことに利用者様の状況変化は大きくありません。

- 一番は、コロナウイルスへの感染が心配である。
- 大きく困ったことはないが、心配は常にあった。誤嚥性肺炎になるのではないか等、常に専門の方からの口腔ケアは大事と感じた。また、同時に職員のスキルアップも需要である。コロナ前は外出される方が多かったので、外出できないことによるストレスが目立っている。ADLも少しずつ低下傾向にある。
- 誤嚥性肺炎の心配は常にあった。
- ご家族と過ごす時間が減った。
- 義歯の不具合等、緊急の内容については、都度臨時の訪問診療をお願いしていたので大きな変化や困ったことは特になかった。介護スタッフのみでは、十分に口腔ケアを行うことが難しい方については、歯ぐきが腫れていないか心配でした。比較的自立度の高い施設のため、食事や誤嚥等の変化もなく過ごせている。
- なかなか、入って頂く事ができなかった。今は、フロアごとに対応している。
- トラブルになった時、近くの歯医者に行かなくてはならなくなる。少しの外出も心配になる。
- 職員がマスクを着用していることによって、表情が汲み取りにくく、馴染みの職員でも誰だろうと思われ認知症の進行が心配である。
- 利用者の口腔ケアが介護職のレベルが低いため、意識がない。週一回の歯科による訪問診療はその時だけでもきれいになると安心してしまったので口の中が心配である。
- 100床の施設である。介護は心地よい接触が日常の基本になります。そのため、3密を防ぐ行為やマスク着用を徹底することが難しい。家族との面会やボランティアの方も施設に入れないため、利用者の生活が単調であったり、寂しいという感情にもなり、元気がない方がいる。口腔ケアは食事に欠かすことができないケアですので、歯科診療は必須です。
- 嚥下評価ができないため、利用者の食事形態の判断が難しかった。義歯の製作等の進捗が遅れてしまった。

以上